

JOMF 派遣医師便り (2018.12)

◆マニラ◆

フィリピンで麻疹大流行

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

WHOによればフィリピンにおける2018年1月から11月までの麻疹患者数は17,000人を超えた。2017年同期11か月間の報告患者数は3,700人余りであったことを考えると患者数は急増している。(日本での麻疹発症報告は2017年1年間で189人、2018年は11月28日現在までに263人(国立感染症研究所データ))。

フィリピンの5歳未満の子供のうち200万人が麻疹ワクチン未接種であると言われている。「麻疹は重症化すれば生命にかかわりえる病気だが、ワクチン接種で発症予防可能な病気だ」とフィリピン厚生省も早急のワクチン接種を呼びかけている。

麻疹ワクチン低接種率の大きな要因は貧困と教育の問題だと考えるが、「原因の一つにフィリピンでの“ Dengue熱ワクチン問題”が関わっているのではないか」との報道もある。「この問題により国民のワクチン全般に対する信頼感が低下しているのではないか」とも言われている(各種新聞TV報道)。

フィリピン厚生省の指導のごとく、科学的な根拠に基づいた丁寧な説明を繰り返し、ワクチン接種により麻疹の発症予防につながることを理解してもらえよう継続していくことが大切である。

感染症は患者さん一人の問題ではなく国全体、地球全体の問題でもある。フィリピンに住む日本人や外国人も当然のこと、来比する出張者も麻疹に対する十分な知識を持って対応していただくようお願いしたい。